

令和5年度補正予算「ボツワナ北部地域（ンガミランド）における干ばつの影響を受けている世帯・小規模農家に対する食料安全保障改善のためのレジリエンス強化」プロジェクト引き渡し

在ボツワナ日本大使館

令和7年6月5日

2024年5月、日本政府の資金協力により実施されたUNDPプロジェクト「干ばつ被害を受けた家庭及び小規模農家のレジリエンス強化による食料安全保障向上プロジェクト(Strengthening the resilience of drought-affected Households and Small-scale Farmers in Ngamiland District to improve their food security)」の引渡しが、ボツワナ北部オカバンゴ地域にて行われました。

本プロジェクトは、深刻な干ばつ及び気候変動の影響を受けるコミュニティに対し、レジリエンスを強化し食料安全保障を改善することを目的とし、UNDPがボツワナ地方自治・農村開発省の主導の下、農業省、保健省、土地・水資源省と連携して実施したものです。日本政府は、令和5年度補正予算を通じて約40万米ドルの緊急無償資金協力を行いました。

支援内容は以下のとおりです：

- 太陽光発電を活用した井戸の修復と設備整備(野生動物保護対策含む)
- 高温や水分蒸発への対応として遮光ネット付きのクラスター菜園の整備
- 小規模農家向けの歩行型トラクター等の農業機械と技術研修の提供
- 女性及び若者主導世帯への重点的な支援

支援地域には、Ngarange、Sekondomboro、Ukusi、Qangwa、Mohembo East、Etsha 8、Nokaneng、Rekonga (Rukonga) が含まれ、農業・畜産・水資源分野における包括的な支援が実施されました。

進藤雄介駐ボツワナ日本国大使(H.E. Mr. SHINDO Yusuke)は現地を訪問し、整備されたインフラや農業設備を視察した後、「このプロジェクトが地域住民の尊厳ある暮らしと、気候変動への備えに繋がることを願っています。日本は今後も包摂的で持続可能な地域開発に貢献して参ります」と述べました。

また、UNDP ボツワナ常駐代表のホバス博士(Dr. Balazs Horvath)は、「UNDPは、女性や若者をはじめとする誰もが、自らの課題に対応し、持続可能な未来を切り開く力を持てるボツワナを目指しています。本プロジェクトは、その理念を体現するものです」と語りました。

更に、ディショ一国会議員 (Hon. Gabatsholwe Disho) も、日本政府と UNDP への謝意を述べるとともに、将来的な地域全体への支援拡大への期待を表明しました。

本事業は、「人間の安全保障」の理念に基づく日本の開発協力の一環として、特に脆弱な立場にある人々に寄り添いながら、持続可能で強靱なコミュニティの実現に向けて実施されました。

また、UNDP ボツワナのホバス常駐代表は、「UNDP は、女性や若者を含む全ての人が、自らの課題に向き合い、持続可能な未来を切り開けるボツワナを目指して活動しています。本プロジェクトはその取り組みを体現するものです」と強調しました。



大使によるスピーチ



提供したトラクター



遮光ネット



ソーラーパネルで稼働するボアホール（井戸）



コミュニティからの参加者①



コミュニティからの参加者②